



レインボーネット Rainbow Net

れいんぼー Topics

宮古市末広町商店街・歩行者天国で

「はあとふるフェスタ2013」を開催!



～ねえ! みてみて、
木工体験コーナーで木の實のリスを作ったよ!～

謹賀新年

会員及び関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になりました。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

昨年の10月13日、14日の二日間、宮古市末広町商店街で「宮古街なか復興市2013秋」が開催されました。同日同会場でレインボーネットも福祉関係団体等と連携し、障がいをお持ちの方と地域住民との交流イベント「はあとふるフェスタ2013」を開催しました。お陰様で両日とも好天に恵まれ、歩行者天国には、子ども連れの家族、若者、高齢者、そして障がいをお持ちの方の笑顔がいっぱい溢れていました。震災による津波被害を乗り越え見事な復活を成し遂げた宮古市末広町商店街、我々もコミュニティの一員として、これからも共に歩んでいきたい。(文責・加藤)

目次 CONTENTS

- | | | | |
|--|-----|--------------------------------------|-----|
| ●れいんぼーTopics | 1 | ●はあとふるズームイン「地活センター」 | 8～9 |
| ●年頭にあって | 2 | ●宮古圏域障がい当事者団体等ネットワーク会議を開催しました! | 10 |
| ●ザ・自立支援協議会 | 3～5 | ●はあとふるVoice「当事者の声」 | 11 |
| ●れいんぼー社会資源ガイド
「こころのケア」に取り組んでいる皆さんをご紹介 | 6～7 | ●なんでもKEIJIBAN、編集後記 | 12 |

年頭にあたって

特定非営利活動法人

宮古圏域障がい者福祉推進ネット

会長 飛澤 和夫



平成26年の新年を迎え、希望と明るいなになるよう念願しております。

人生にはいろいろな出会いがあります。その時のことをどのように捉えるかによって、出会いの結果というものが「善」となり「無」となり「悪」となってまいります。

東日本大震災の発生から3年近く経ち、引き続いて記録的集中豪雨、山肌の流れ、がけ崩れ、道路の決壊、洪水、家屋の浸水・流失など、その都度たくさんの方が犠牲になってきました。また、雨に関係のない地域には突風、竜巻などの被害が起こっております。こうした一連の災害は、自然災害の偶発的なものであっても、うにもしようがないことだと、諦めと悟りのような言葉で簡単に片づけられています。しかし、科学的には確かにそのとおりかとは思いますが、これだけ大きな被害が続いているのはそれだけではない、何か別の原因があるのではないかと勘繰りた



くなっています。もちろん私は運命論者ではございませんので、こんな思いというのはただ関係のない戯言にとられるかもしれませんが、惨状を見ると、それは災害の度に犠牲になった多くの人々が無言の叫びをあげ、音波に変えて災害を引き起こしているのではないか、そんな気がしてなりません。時間の経過とともに、災害の警戒・恐怖というものを風化させて、食欲と秩序のない放縱の生活に酔い痴れる人たちに、災害の危機感を呼び戻してほしいという警告だと思っております。

災害の被害を最小限にするためには、山や川を十分に整備し、また人々が安心して暮らせる土地を造ることを事前の対策として実行していかなければなりません。犠牲者の叫びはそのことを警告しているのではないのでしょうか。確かに事前の計画は必要だと思えます。警告を無視してこれまで幾百年の間、災害の被害を繰り返して被ってきました。災害にあつたときの受け止め方として、犠牲者の声が何かしら関係しているのでは

ないかと考えることによって、正しい結果を得られるのではないのでしょうか。

この事前の計画・準備は、災害に限らずどの場面においても必要となります。レインボーネットは、心身に障がいを持つている人の相談・支援を行うことを本分としております。それを全うするためには事前にスタッフたちが、いろいろなテキストやマニュアル、諸法諸規に則って学習し、また技術を習得することが必要です。この度入院することとなり、入院生活の中で気付くことがありました。それは、専門の知識を受けて技術も卓越している看護師の皆さんが、1日24時間3交代で勤務をしていますが、この看護師の看護は、患者の手となり足となり、また目となり耳となる完全なものであります。ただ、それに対しては感謝の一語しかありませんが、ここで気づいた事は、レインボーネットのスタッフたちが学んできているマニュアルやテキスト、看護師の皆さんがもっている知識や技術は、例えば薬の効能書きで何か欠けているような気がしてなりません。本当に相手に対して効き目のあるものは、薬というものを与えなければ出来ません。その薬が一体何かというと、病院の女性看護師さんが勤務が終わって帰る

時、「大丈夫だから、頑張りましょう」と声をかけてくれます。これが薬なのだと思いました。彼女たちの言葉は、職務的に言っているのではなく、人間愛から出た言葉だろうと思います。レインボーネットにしても病院にしても、やはりテキストだけでなく人間愛から出る言葉がかかるべきだと思います。そのことによって、患者・利用者も大きな救いになることを実感として受け止めました。ただ薬の効能書きだけをいくら並べても効き目がないということを理解し、人間愛から出てくる言葉を薬にして与えるべきことを一つの座右の銘にし、スタッフの皆さんが平成26年も頑張つて務めていただきたいとお願いを申しあげて、年頭の挨拶といたします。





ザ・自立支援協議会

～これまでの活動を振り返って～

障がい者自立支援協議会実務担当者会議は、各市町村や社会福祉法人若竹会、宮古市社会福祉協議会、相談支援事業所、レインボーネット、県保健福祉環境センターなどといった関係機関の担当者等により構成され、障がい者自立支援協議会の運営全般について協議しており、概ね月一程度



岩手県宮古保健福祉環境センター
地域福祉推進総括主査
浅沼 修

実務担当者会議

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：加藤伸二）

所属	職名	氏名
岩手県宮古保健福祉環境センター	地域福祉推進総括主査	浅沼 修
〃	主任社会福祉主事	田中義紘
宮古市保健福祉部福祉課	主査・担当長	佐々木幸夫
〃	主任社会福祉主事	吉濱賢寿
〃	社会福祉主事	長門育美
山田町健康福祉課	地域福祉係長	佐々木満
岩泉町保健福祉課	主任	武田勝磨
田野畑村保健福祉課	主任主査	大上高広
社会福祉法人若竹会	主任事務員	館崎伸明
宮古市社会福祉協議会	事務局長	葛 浩史
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	事務局長	瀬川康平
相談支援事業所れいんぼー	相談支援専門員	加藤伸二

四期障害福祉計画の策定に向けた取り組みなど、障がい者支援に関する様々な課題について協議しています。

私は今年度から会議に参加させていただいていますが、関係者が一同に集まって協議することにより共通理解が図られ、地域における障がい者支援のネットワークとして、また、関係者による連携を図る場として、とても重要な会議であると感じています。

障がい自立支援協議会を支える会議の一つとして、地域における障がい者支援が円滑に、着実に前進していくために役割を果たせるよう、他の委員の皆さんと協力しながら、大いに議論していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

の頻度で会議を開催しています。

これまでは主に宮古市を会場として開催していましたが、今年度は管内の各市町村で開催し、各地の障がい者福祉の現状について説明を受けるなどして、それぞれの地域の様子について理解を深めました。その他にも、障害者虐待防止センターの運営や特別支援学校卒業生等の就業継続支援B型事業所利用への対応、第

相談支援部会

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：山本美恵子）

所属	職名	氏名
松山荘さばーとセンターフルール	地域福祉主査	佐々木伸一郎
宮古市社会福祉協議会	相談支援専門員	在原千賀子
三陸病院	精神保健福祉士係長	中居 均
宮古山口病院	精神保健福祉士	平野喬大
わかたけ学園	サービス管理責任者	山根恵理子
あっとほうむ Life みやこ	〃	吉田多紀子
はまゆり学園	主任保育士	武田るり子
宮古市保健福祉部福祉課	社会福祉主事	佐々木大輔
岩手県宮古保健福祉環境センター	主任社会福祉主事	田中義紘
やまだ共生作業所	相談支援員	佐々木拓真
宮古地区チャレンジ就業・生活支援センター	ジョブコーチ兼職業指導員	横田留美子
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援専門員	平野千代野
〃	〃	坂下 晃

について取り組んできました。

一つ目は「スキルアップセミナー」です。今年度より障がい者総合支援法の障がいの定義に「難病」が加わったことから、「難病の定義と障がい福祉サービスについて」と題し、岩手医大の熊谷佳保里氏から講演をいただきました。特定疾患治療研究事業などの名目で助成制度があるものの、原因の解明さえ未確立の疾患でも研究事業や医療費助成制度に選定されていない疾患があり、難病の疾病間で不公平感があるとのことでした。少し



松山荘さばーとセンターフルール
地域福祉主査
佐々木伸一郎

今年度の相談支援部会の活動は、概ね前年度を踏襲しながら4点

ではありますが、難病の方の現実に触れることができれば考えさせられる講演でした。

二つ目は「地域懇談会」の実施です。圏域4市町村で「休日・余暇の過ごし方を考えよう」をテーマに、より豊かな生活を送るために障がい者の余暇活動をどう取り組むのか、当事者から休日をどのように過ごしているのか発表していただき、その後に当事者、家族、支援者、関係機関でグループワークを行い、今後の支援の参考になりました。前段ウォーミングアップで健康運動を行い、頭と体のリフレッシュを図りました。

三つ目は「計画相談支援」に関する共通理解と情報共有です。平

成26年度末までに福祉サービスを利用している方のサービス等利用計画を策定することになり、部会のなかで澤田勝相談支援専門員から概要説明を受け、11月以降は事業所、対象者、家族等にサービス等利用計画の状況把握調査を実施し、新たな障がい福祉サービスの開拓や既存サービスの改善、サービス等利用計画の質の向上を図ることとしております。

四つ目は、各事業所で抱える処遇困難なケース等の情報交換を部会のなかで行い、サービスの課題やニーズについて考えております。

部会としては、福祉サービス利用者が安心して地域で生活できるようにサービスの充実に向けていきたいと考えております。

権利擁護部会

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／
担 当：佐々木大介）

所属	職名	氏名
宮古ひまわり基金法律事務所	弁護士	小口幸人
貫洞司法書士・行政書士事務所	司法書士	貫洞 厚
松本法律事務所	弁護士	松本良啓
法テラス宮古法律事務所	〃	杉山健太
岩手県宮古保健福祉環境センター	地域福祉推進総括主査	浅沼 修
宮古市保健福祉部福祉課	主査・担当長	佐々木幸夫
山田町健康福祉課	地域福祉係長	佐々木満
岩泉町保健福祉課社会福祉室	主任	武田勝磨
宮古市社会福祉協議会	専門員	坂本 心
岩手県社会福祉士会沿岸ブロック	代表	畠山 充
NPO法人くらしのサポーターズ	くらしのサポーター	波岡美紀
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	事務局次長	加藤伸二



松本法律事務所
弁護士
松本 良啓

今年度の権利擁護部会では、昨年までに引き続き、後見制度の利

用を支援するセンター等の設置について検討を進めました。

具体的には、すでに組織を立ち上げて、先進的な取り組みをされている県内の団体関係者をお招きして、立ち上げの経緯やマンパワーの確保、費用面の問題、団体の維持に必要なこと、さらには今後の課題などを伺いました。

議論を重ねて各地域の実情に応じた組織を立ち上げてきたお話は、今後の検討に大変参考となるものでした。

当部会での議論も締めくくりの時期が

近づいております。宮古圏域のニーズにあった結論となるよう、今後も努力を重ねてまいります。

もう一つ、積極的に取り組んだのが、後見制度の利用を紹介する講演等への取り組みです。さらなる制度の活用を目標に、部会員による講演会を複数回にわたって実施してきました。寸劇を取り入れたりもして、わかりやすい講演内容となるよう心がけてきました。今後も継続していきたいと思っています。

後見制度をめぐる社会の考え方も変化しており、最近では市民後見人の活用といったことについても真剣な検討が重ねられてきています。こうした新しい議論についても、取り組んでいきたいと考えております。



就労支援部会

（事務局：宮古地区チャレンジ就業・生活支援センター／
担 当：小林和信）

所属	職名	氏名
宮古職業訓練センター	事務局次長	石原和幸
宮古公共職業安定所	上席職業指導官	野中祥子
岩手県宮古保健福祉環境センター	主任社会福祉主事	田中義紘
岩手県立宮古高等技術専門学校	障がい者職業訓練トレーナー	田澤 實
岩手県立宮古恵風支援学校	教諭	大沼洋貴
宮古市保健福祉部福祉課	主任	金澤美智子
宮古市産業振興部産業支援センター	主事	富田郁美
宮古地区チャレンジ就業・生活支援センター	就業支援ワーカー	小名 修
就労移行支援事業所すきづぶ	サービス管理責任者	鷺田敦子
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援専門員	平山恵子

ハローワーク宮古 宮古公共職業安定所
上席職業指導官 野中祥子

就労支援部会では、障がい者の就労支援体制の整備に関するところ、障がい者雇用の普及・啓発についてを主な協議事項として取り組んでいます。

平成25年度は、大きく4つの事業に取り組んでいます。1つ目は、就労系障害福祉サービスの利用に係るアセスメント体制の整備について検討しました。障害者自立支援法に基づいて定められた要綱を確認、協議し、暫定支給決定を受け、本来の法律の定めに従い就労移行支援事業所がアセスメント機関として取り組ん

で行くこととしております。2つ目は、障がい者雇用の普及・啓発に関するところとして、チャレンジジョブフォーラムを岩手県立宮古恵風支援学校「企業との連携協議会」と共催で実施しました。基調講演といたしまして、ヤマト運輸様より概要説明と障害者雇用の実際から、企業の姿勢、取り組みをご講演いただきました。3つ目は、県社協との共同制作で、様々な障がい者雇用の現場を収録した企業向けのDVDを作成し、障がい者雇用の普及・啓発に取り組んでいます。4つ目は、その他部会の目標達成のために必要な事項として、障がいの態様に応じた多様な委託訓練について、宮古職業訓練センターと連携を図り、訓練から職場開拓まで密な情報の共有の元に活動してまいりました。

今年度より、「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」となり、支援の対象が身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者（発達障がい者を含む）となりました。さらには、一定の難病の患者が対象として加えられました。今後も更に障がい者雇用に関する啓発や、サポート体制の向上を図る取り組みを行っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



者にアンケートを実施し、地域移行者の調整機能の仕組みについて検討を重ねております。

平成25年9月21日（土）には、一関市の「心の病と共に生きる仲間達連合会キララ」（通称 キララ）をお招きして、平成25年度地域生活支援セミナーを宮古市山公民館多目的ホールにて二部構成で開催しました。一部はキララのメンバーとボランティアらでつくる演劇集団 キラりん一座による「心 天気になあれ！」の公演と「キラりん一座・元気と強さの源



宮古市山口病院
医療相談室
中島 一博

今年度の精神保健部会では、宮古圏域障がい福祉サービス事業

精神保健部会

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：澤田 勝）

所属	職名	氏名
岩手県宮古保健福祉環境センター	地域福祉推進総括主査	浅沼 修
岩手県宮古保健所	主査保健師	太田広美
宮古市保健福祉部福祉課	主任保健師	小林洋恵
岩手県立宮古恵風支援学校	教諭	昆 宏実
宮古山口病院	医療相談室長	中島一博
三陸病院	医療相談室係長	芳賀志津子
宮古市社会福祉協議会	相談支援専門員	在原千賀子
いずみ会（精神障がい者家族会）	会長	佐々木俊一
みやこワークステーション	管理者	及川耕一
障がい者支援施設 望みの園 はまなす	施設長代理	鈴木貴雅
わかたけ学園	生活支援員	佐々木尚美
自立生活支援センターウイリー	サービス管理責任者	藤澤順子
宮古地区チャレンジ就業・生活支援センター	就業支援ワーカー	斉藤 歩
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援専門員	平野千代野

とも皆様のご協力、よろしくお願い致します。

について」と題してキララメンバーと岩手県教育委員会保健師・北川明子氏より講話を頂きました。二部は交流会「おしゃべりで元気になろう」と題してキララメンバーと参加者がグループに分かれ活発なトークが繰り広げられました。キララメンバーから元気をもらった気がして充実したセミナーでした。

平成26年4月1日には、改正精神保健福祉法が施行されます。その中には医療保護入院者に対する退院促進に関する事項も盛り込まれており、地域移行に拍車がかかると考えられます。他職種の横の繋がりが今まで以上に必要になると思いますので、今後



発達支援部会

（事務局：宮古圏域障がい者福祉推進ネット／担当：高屋敷大助）

所属	職名	氏名
宮古市子ども発達支援センター	主査	岡崎 薫
岩手県立宮古恵風支援学校	特別支援エリアコーディネーター	千葉信子
〃	教諭	菅原 寿
岩手県宮古保健福祉環境センター	主事	泉田宏之
岩手県宮古児童相談所	児童心理司兼児童指導員	上田光世
宮古市立山口小学校	特別支援担当教諭	伊藤隆幸
宮古市立第一中学校	教諭	大程朝子
岩手県立杜陵高等学校	通信制宮古分室教諭	盛合喜代子
宮古市保健センター	主任保健師	沢田祐理子
山田町健康福祉課	保健師	東 知英
岩泉町健康福祉課社会福祉室	主事	箱石善也
田野畑村健康福祉課	保健福祉班保健師	三田地千穂
知的障がい児施設はまゆり学園	指導係主査	坂下勝一
宮古市社会福祉協議会	相談支援専門員	小野寺久美
宮古私立幼稚園協議会	会員	森分和基
岩手県社会福祉協議会保育協議会宮古ブロック	会員	湊 希
放課後等デイサービス事業所ゆうやけ	サービス管理責任者	加藤恭子
宮古職業安定所	学卒ジョブサポーター	大平のり子

生に行っていました。

者に向けた勉強会（発達障がい学習会）も3年目を向かえました。第1回は北海道教育大学旭川校教授の安達潤先生から「自閉症スペクトラム障がいへの支援と実際」について講義をいただきました。安達先生には、震災直後から支援者研修の部分でサポートをいただいています。第2回は発達障がいを持つ子どもの保護者向けプログラムとして注目されている「ペアレントトレーニング」について、みちのく療育園の小児科医川村みや子先生と看護部長の三枚堂静子先生に実践を交えながら概要をお話しいただきました。（本来、ペアレ



宮古市子ども発達支援センター
主査
岡崎 薫

発達支援部会では、2か月の定期的な会議を持ちながら、主に支援

科学教室主任教授の青木省三先生をお招きし、「人は、皆、グレイゾーンに、生きる」と題して、人が多様に発達し多様に生きることについて事例を交えたお話しをしていただきました。県内外から200名以上の方々に御参加いただき大盛況の講演会となりました。

震災を挟んで5回目となる「なないろ茶話会」では、久慈地域で活動する親の会「からふる」の皆さんから親の会設立の経緯からこれまでの活動について報告していただいたあと、参加者同士で茶話会（情報交換）を行いました。「からふる」の皆さんのエネルギー溢れる活動に一同感動し、和やかな中にも涙あり笑いありの茶話会となりました。

これからも地道に、かつ確実に支援者と保護者（当事者）のための事業を行っていきたいと思います。今後とも、御協力をお願いいたします。

資源ガイド

PART 12 (保存版)

できる施設や制度、人や物などを意味する言葉です。このコーナーではみなさんが、地域で「豊かなケア」に取り組んでいる皆さんをご紹介します!

特定医療法人・智徳会 未来の風せいわ病院



これから暮らし支援部
副部長 安保 寛明

3年前に盛岡に住んでいる当事者が中心になって、「WRAP研究会いわて」という団体を結成しました。未来の風せいわ病院のデイケアに通っているメンバーにWRAPを紹介したことが始まりです。現在は、みんなで集まってリハビリ(回復)について話し合ったり、自分らしく生きていくための企画をして実現したり、街中でご飯を食べたりしています。

宮古には、「こころの元氣サロン」というサロン活動のためにWRAP研究会いわてのメンバーが通っていて、1か月に1回、何かをしています。例えば、秋にバスツアーでベルギーディア鯨山という英国調ガーデンに行ったり、ヨガの体験会をしたり、好きな音楽を紹介したり、こころの元氣について話し合ったりをしています。

年末には盛岡で有志が「リカバリーミーティングいわて」というイベントを企画しています。統合失調症の当事者でお笑い芸人の松本ハウスさんをお招きしたり、WRAP(元氣回復行動プラン)の体験会をしたりしました。毎年、宮古から無料の貸し切りバスを運行していますので、もし来年も開催される時には、ぜひいらしてください!

私は、昔の映画の登場人物のセリフ「人生に必要なのは、勇気と想像力とほんの少しのお金だ」という考えが好きです。勇気と想像力は、人と会ったり何かを体験したりすることです。育つんじゃないかと思っています。となり町に住んでいる私たちですが、ときどき皆さんに会いに行き、何かを一緒に経験したいです。今年もよろしくお願いします。

宮古地域 こころのケアセンター



主任
橋場 俊夫

私たちは、東日本大震災で辛い経験をされた被災者(被災地の方々)の心身の健康を守るため、きめ細やかで専門的なこころのケアを、県や市町村や医療機関など、地域の関係機関と協力して、長期にわたって実施していくこととしています。

事業の内容としては、震災こころの相談室・スタッフによる仮設・被災者宅等の訪問相談・各市町村保健事業、職員への支援、病院・事業所などの関係機関との話し合いや研修(勉強会)などを通して、地域の方々の、こころとからだの回復のお手伝いをしています。

地域に根ざした活動をしていきたいと思っています。

弱い立場の方々でも住み良い街「宮古」。障がいをもった方々にも住み良い街「宮古」。...こんなことを思いながら、今日、明日を迎えることで、地域の方々にも住み良い街「宮古」になると信じています。今、できているところから、ひとつ前へ：もうひとつ前へ：と取り組んでいきたいと思っています。

また、レインボーネットさんの活動は、地域には欠かせないものとなっており、お互い、地域のひとつの社会資源として協力しあっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

社団医療法人・新和会 宮古山口病院



地域生活支援室 室長
小成 祐介

宮古山口病院生活支援室は、名前の示す通り「地域での生活を支援する」部署であり「つなぐ」部署として設けられました。「つなぐ」部署とは、具体的には病院内の各部署を「つなぐ」患者様方への支援の流れをよりスムーズにすること、病院と地域を「つなぐ」部署としての役割を持ちます。

精神科病院において、入院期間はほかの診療科と比べて長いのが一般的です。治療期間が数か月から数年かかるケースも珍しくありません。長い時間の中で、治療を受ける過程で、地域で生活をするよりも病院での生活を選ぶ方も少なくはありません。症状が安定した方で退院が可能な方について、組織的に働きかけ、退院をするための環境を整え地域へつなげていきます。はじめは、生活の環境が変わることに抵抗がある方も多くいます。しかし、生活の場を病院から地域へ移した方は「退院をして良かった」と話されます。先日、退院をされて施設での生活を始めた方と話した時に「生活するのは大変だけれど、退院してよかった。自由がある」と話していたのが印象的でした。

長い時間を病院で過ごされた方が地域で生活することで止まっていた時間がもう一度動き出す、そんな感じがしています。



れいんぼー社会

みなさ〜ん!「社会資源」という言葉をご存じですか?「社会資源」とは、障がいをお持ちの方が利用暮らし」を実現していくために必要な社会資源をご紹介します。今回は、宮古圏域で「こころ

医療法人財団 正清会 三陸病院

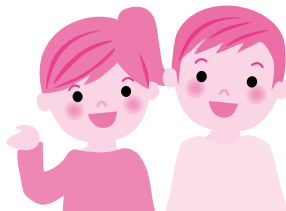


精神保健福祉士係長
中居 均

岩手県沿岸部は元々、自殺の多い地域であります。それに加え3・11の震災もあって仮設住宅での生活のストレス、将来に対する不安などからこころのケアの必要な方が増えています。今後も、今の状況が続くものと思われま

す。震災から1000日過ぎた今でも行政、関係機関、ボランティアなどによるいろんな被災地活動が行われています。これからも復興が終わるまで、あるいはそれ以降もそういった活動は必要だと思っています。皆様の周りにはたくさんの方の支援してくれる人(仲間)がいますので、気軽に声をかけてみてください。

現在、三陸病院では特に表立った取り組みはなく、今後も病院として診療、相談といった形での関わりが多くなりますが、関係機関と連携をとり、少しでも皆様のお役にたてれば良いなと思っています。



岩手県宮古保健所



主査保健師
太田 広美

保健所では、管内の精神保健、自殺対策、難病対策、感染症等健康危機管理対策の専門的保健サービス、食品衛生、環境衛生、医事・薬事等における監視及び指導・検査等の公衆衛生に関する様々な業務を行っています。

私は、今年度から、主に精神保健、ひきこもり対策業務の担当となりました。

少子高齢化が急速に進む中、家族機能の崩壊や、地域の見守り・支えあい体制の脆弱化による自殺の問題、ひきこもりの問題、そして災害によるこころの問題など、地域における新たな健康課題は、複雑化・多様化していると感じています。

そんな「地域」の健康問題等を感じとり、市町村や医療機関、福祉や教育機関等の関係機関の関係者の皆様と、その健康課題の解決に向け一緒に考えながら取り組んでいきたいと思っています。

また、毎日の保健活動に取り組んでいくには、こころと体が元気であることが大切ですので、自分のケアにも力をいれていこうと思っています。

NPO法人くらしのサポーターズ あすからのくらし相談室・宮古



副理事長
吉田 直美

私たち「あすからのくらし相談室・宮古」は、あなたの気持ちに寄り添って一緒に問題の解決を目指すところです。「困りごとが解決しない」、「誰にも相談できない」、「生活が苦しい」、「どこに相談したらいいかわからない」、「毎日がつらい」など、どんなことにも相談に応じ、問題が解決する支援します。間口も敷居もない、いわば「かけこみ寺」のような相談窓口を目指しています。

くらしに色々な困難があると、こころも苦しくなります。私たちはそんなあなたのつらい気持ちをシェアしたいと思っています。くらしの困難を一緒に解決して、あすからのくらしが明るくなるように一緒に歩みます。相談支援は無料。秘密は厳守します。専門知識を持った「くらしのサポーター」が対応しますので安心してご相談ください。



ち かつ 「地活センター」



維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・ピアカウンセリング等の活動、各種ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。



趣ある曲り屋の中には、可愛い馬が!

初の小旅行を開催♪
地活の遠野物語
8月31日(土)、この日を心待ちにしていた参加者一同24名は、元気良くバスに乗り込み遠野市に向かって出発しました。昔ながらの山里を再現した遠野ふるさと村では、懐かしさを感じる景色の中で、ゆったりとした時を過ごし、茅葺屋根の曲り屋で美味しい昼食をいただきました。江戸中期から明治中期に作られたという曲り屋や、水車、炭焼き小屋は、現代社会に生きる私達に、新鮮な印象を与えてくれたようです。
その後立ち寄った「しまむら遠野店」では、思い思いに買物を楽しみ、和気あいあいと遠野を後にしました。
初開催の小旅行。移動の車中も笑い声が絶えず、参加した当事者の皆さんにとって、また、職員にとっても思い出に残る一日になりました。

～参加者からの一言～

◆おもしろくて楽しい旅行でした。(A・H)



◆遠野には何回か行ってますが、馬がいて古風な場所を訪れて嬉しかったです。天気が良く、昼食では特に天ぷらが美味しくて楽しい一日でした。今後も夫婦で活動に参加していきたいと思います。(Y・N)

♪ 男性・女性当事者の会 ♪



「かっとばせ〜!」応援にも力が入ります!

男性当事者の会 カブトの会

二ヶ月に一度開催しており、これまでバスケットボールやフットサルなどの運動系を主体に、映画鑑賞も取り入れて幅広く楽しく活動しています。

十一月は山口病院デイケアとの合同で、ソフトボール大会を実施しました。

大会は選手も応援も盛り上がり、熱い戦いが繰り広げられました。秋空の下、気持ち良い汗をかきましたね♪

女性当事者の会 チューリップの会

「女性だけの、気兼ねない時間を過ごしましょう!」

毎月一回、二時間の開催ではありますが、女性同士の時間を楽しんでいます。

カラオケ、お菓子作り、ショッピングや映画鑑賞など、内容は参加した皆さんで、毎回相談して決めていきます。

おしゃべりにも花が咲き、あつという間の二時間ですが、心の充電をして笑顔になれる貴重な時間です!



「地域活動支援センターみやこ」活動紹介

はあとふるズームイン!!

「地域活動支援センターみやこ」では、主に精神障がいを持った方たちを対象に、自立の促進、生活の改善、身体機能のサークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉及び地域の社会基盤との連携強化のための調整、

写真で見る「はあとふるフェスタ」

盛況御礼



【名物! 千本つりコーナー】



【おもちゃを交換 かえっこバザール】



【木工体験で置物作り】



【気持ちよく青空ヨガ】



【癒やしのアニマルセラピー】



【商店街に花を咲かせよう】

はあとふるフェスタ
2013



「障がいのある人もない人も、みんな街に集まろう」をスローガンに、10月13日、14日の2日間、はあとふるフェスタが開催されました。

このフェスタは共催、後援団体のご協力により、障がい者の社会参加促進と、地域づくり推進に寄与することを目的としております。

開催日は天候に恵まれ、たくさんの方々においでいただきました。それぞれのイベントでは、秋の日差しに包まれながら、楽しそうな声と笑顔があふれ賑わいを見せていました。

笑顔の輪が広がった2日間。ご来場、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

開催イベントあわせに

レインボーネット

- ・お祭り広場
- ・かえっこバザール
- ・木工体験
- ・千本つり
- ・あおぞらヨガ教室
- ・ハンドトリートメント
- ・アニマルセラピー
- ほか

ユニバーサルアートギャラリー

「地域活動支援センターみやこ」の表現活動で生まれた作品を展示しました

10月7日～21日

【会場：北日本銀行宮古支店】

いわて障がい福祉復興支援センター 宮古圏域センター

- ・癒しの空間へようこそ
- ～スヌーズレンでリラックス～
- ・お願いカードを作ろう!
- ほか

NPO法人 結人

- ・障がい当事者の講演会
- ～障がい者自身の声を訊こう!～
- 「地域で自分らしく生きるとは」 鍛冶克哉氏
- ・商店街に花を咲かせよう
- ・車イス障害物レース
- ほか

宮古圏域障がい当事者団体等 ネットワーク会議を開催しました！

事務局次長兼相談支援専門員 加藤 伸二



レインボー
ネットでは把握
している宮古
圏域の当事者
団体（家族会
等を含む）は、全部で32団ありま
す。身体障がい者は本人を中心に、
障がい児、知的障がい者は親を
中心に、精神障がい者は家族を
中心に様々な活動を行なってい
ます。

宮古地域にある社会資源の多く
は、これらの当事者団体の運動
や活動によって整備されてきたと
言っても過言ではありません。特
に障がい者の働く場の確保におい
ては、非常に大きな役割を果たし
てきました。

しかし、時代の流れの中で、当
事者団体に求められる役割は少し
ずつ変化し、多くの当事者団体が
新たな局面を迎えています。

昨年の10月、「宮古圏域障がい
福祉・社会資源ガイドまっぴ」を
作成するため、レイボーネット
では宮古圏域で活動している当事

者団体の活動状況調査を実施しま
した。32団体に調査票を配布し、
現在21団体からの回答を頂いて
います。調査にご協力を頂いた
当事者団体の皆様には、紙面を
通じて心よりお礼を申し上げます。

調査結果を見ると、多くの団体
が「会員の高齢化、新規会員の減
少で運営が難しくなっている」と
答えています。

また、「震災は会の活動に影響が
あったと思いますか」という問い
に対し、11団体が「あった」と答え、
そのうち9団体が「震災を契機に
活動が停滞した」と答えています。
震災後、会を解散した団体、活動
を停止している団体もありました。

このような状況を踏まえ、レイ
ンボーネットでは、昨年の11月
29日、休暇村陸中宮古で「宮古
圏域障がい当事者団体等ネット
ワーク会議」を開催しました。
会議には約30名が出席。午前は、
「これからの当事者団体の活動に
ついて考える」というテーマで

ワークショップを行ない、午後は、
岩手県福祉総合相談センター所
長の朽木正彦様より「当事者
団体の活動に期待すること」と
いうテーマでご講演を賜りました。

朽木所長は講演の中で、「年に

一度は行政との意見交換の場を
もって欲しい。星の数ほど勉強会
をして欲しい。障害者施策を推進
していくために、当事者の意見を
積極的に述べて欲しい」と当事者
団体にエールを送りました。



ネットワーク会議の様子（休暇村陸中宮古）

はあとある Voice

生活をしていくにあたり感じていること

金澤 貴志



私は平成10年に足に大ケガをしました
が、普通に生活をしてきました。
しかし、平成23年12月に脳梗塞と
なっていました。

病気を発症してからしばらくの間は
入院をしていたのですが、退院した
後に直面したのが、『これから先、どの
ようにしていけば良いのか?』という
漠然とした先の見えない不安でした。

そもそも『どこで』相談したら良い
のか、また『何を』相談したら良いのか、
そして『どのように』相談したら良い
のか等…さっぱり分かりませんでした。
今までの生活において、福祉との
関わりというものは余りなかったため、
知らなかったことは当然だったのかも
しれません。

見かねた両親が宮古市身体障害者

福祉センターに相談をしたことにより、
相談支援事業所に繋いでもらい、『どこ
で』相談したら良いのかということは
解消することができました。相談支援
事業所に連絡してみると、自宅に相談員
が来てくれたので、『何を』『どのように』
相談したら良いのかという点について
も、自分だけでは困りごとを表現する
ことが難しかったことを相談員が引き
出してくれたように感じています。

現在の私は地域活動支援センター
かねはまに通い、リハビリ等をしなが
ら復職を目指しています。今後は会社
側と復職することを前提に、いろいろ
相談や調整をすることになります。

私が福祉と関わるようになって思う
ことは、福祉を利用することになる
利用者（我々）側に対して、福祉に
関する必要な情報が余り伝わってこな
いということであります。必要になっ
た時に、必要な情報が得られやすい
ようになっていただければ大変助かり
ます。さまざまな広報・啓発をして
いるとは思いますが、更なる発展を
期待しています。

発達障がい当事者の声

ペンネーム「おそろじ王子」

みなさんこんにちは。私は現在宮古
市内の会社で働いています。何の業種
かと言いますと、掃除用具の管理やリ
ースをしています。就労形態は障害者
雇用です。職場の仕事はなかなか大変
です。伝票を紛失するなどミスをした
こともありますが、理解のある事業所
でとても働きやすいですし、自分も
責任感を持って働いています。お客さ
んに喜んでもらえた時の、達成感是最
高です。私は平成22年に「高機能自閉症
という診断を受けました。この診断
を受けた時は「え！自分が?」という
感じで理解に困りましたが、就職と
いう目標があり就労移行支援を受け
雇用に繋がりました。今はその診断名
から自由になっている自分がいいます。

同じ当事者のみなさんも色々な悩み
や葛藤があると思いますが、何事も
経験だと思えます。自分のペースで、
色々挑戦してほしいと思います。



なんでも KEIJIBAN

はあといる映画会

レインボーネットでは左記の通り「はあといる映画会」を開催します。映画会終了後、宮古ひまわり基金法律事務所弁護士の吉水和也さん、シネマライン支配人の榎桁一則さんによるトークショーを行います。

●日時

平成26年2月8日(土) 13時～16時

●会場

マリノアコートDORA 2階
(シネマライン)

●入場無料(要申込み・定員85名)

●作品名「39 窃盗団 (サンキューせとうだん)」
監督・脚本 押田興将

「ダウン症の青年が主役を演じる、意外と社会派? コメディ!」

発達障がい学習会

子どもへの関わり方について学ぶことを目的に、昨年6月1日(土)に開催した「ペアレントトレーニング講座in宮古」の皆様のご要望にお応えし、第二回目を開催します。

ご家族・関係者の方々のご参加をお待ちしております。

●日時

平成26年2月22日(土)
13時30分～16時

●会場

宮古地区合同庁舎
(3階 大会議室)

●定員

30名

●内容

「ペアレントトレーニング講座
in宮古」

●講師

みちのく療育園
看護部長 三枚堂静子氏



「ものごと」
兄キョウカ(押田清剛)、
ダウン症。弟ヒロシ(押
田大)、発達障害。
刑務所を出たり入った
りのヒロシは、オレオレ
詐欺のリーダー・ケンジ
(斎藤歩)に「お前の兄貴
は刑法39条があるから
刑務所に入らなくてもい
いんだぞ」と、そのか
される。キョウカの幼馴
染の和代(山田キヌヲ
と三人で、ケンジにだま
されていると知らずに、
のんきにドロボーの旅に
出て空き巣を繰り返す
三人。痴呆老人の金山
(田川徳)も加わった緊張
感ゼロな「サンキュー窃
盗団」。本当に、彼らは
つかまることが無い!...
のかな?

クリスマスプレゼントが 届きました!



レインボー
ネットにはたく
さんの支援が届
きます。埼玉県
の石澤牧子様よ
り、今年もプレ
ゼントが届きま
した。震災以降、
毎年贈って下さ
います。
12月は各サー
クルのクリスマス会が開催されました。
プレゼントはビンゴ大会で利用者の皆さんに配られました。
いつまでも被災地に寄り添い、お心遣
いいただき本当に感謝いたします。
ありがとうございました。

かい いん ぼ しゅう

会員募集

かいいん しゅるい ねんかいひ

会員の種類と年会費について

個人	正会員	1,000円
	賛助会員	500円
団体	正会員	5,000円
	賛助会員	1,000円

NPO法人レインボーネットの活動運営に賛同し、活動を応援して下さる方を広く募集しています。

●問い合わせ先 レインボーネット事務局
TEL 0193-71-1245
FAX 0193-71-1246

編集後記

新年明けましておめでと
うございます。毎年、今年こそ
は○○をやってみよう!○○
をがんばるぞ!と目標らしき
ものをたてるのですが、な
かなか実行しないまま大晦日
を迎えることが多くなり
ました。

それではいけないと思い、
「今年ではではなく「今月は」
の目標を立てることにしまし
た。今月は本を3冊読む、今
月はダイエツを頑張る、今
月はまめが汁を食べに行く、
今月は映画館で映画を見る、
目標からやりたいことに変
わってしまっていますが、今
自分がしたいことをちよつと
ずつ見つけるのもいいです
ね。1年で12回もやりたいこ
とが見つけれられます。

今年は午(うま)年。野をか
ける馬のように、走り続ける
ことは大変かもしれませんが
でも少しずつ、休みながらで
も前に進んでいきましよう。
皆さんにたくさん笑顔が
「つま」れる年になりますよう
に。今年もよろしくお願
いいたします。
(腹子)

◆発行
NPO法人宮古圏域障がい者福祉
推進ネット(レインボーネット)
岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号
はあといるセンターみやこ
TEL 0193-71-1245
FAX 0193-71-1246
Email: info@rainbow-net.xoom
URL: http://miyako-rainbow.com/
◆発行責任者 会長 飛澤和夫
◆企画・編集
レインボーネット事務局